

「らんまん」古き良き時代

毎朝 8 時の楽しみは朝ドラ「らんまん」だ。植物学者の牧野万太郎が、大きな困難を沢山の人に助けられながら乗り越えていく感動のドラマに釘づけになる。特に貧しい長屋の人たちが共に励まし助けあうシーンは、子ども時代の懐かしいふるさとの記憶と重なった。あの頃は何か困った事があれば近所のおじさんおばさんが駆けつけ、助けてくれた。田舎ではどこにでも当たり前にあった光景だ。しかし今はどうだろう。核家族化し、長屋がマンションに代わり、家族が散らばって、更に人と人の繋がりはどんどん希薄になっている。

私は治療の日はいつも患者さんに野菜や花の育て方や健康の秘訣などお聞きし、いろいろな楽しい話題で一緒に盛り上がります。お陰で沢山のお話ができて元気を頂き、幸せな時間を送らせて頂いている。スタッフ同士だけでなく患者さんも一緒に井戸端会議が出来て不思議にみんながポカポカした暖かい気持ちに包まれる。ひょっとしたらこれが私達が目指している西村長屋かも！

西村 吉行

スマホアプリもお薬に

「良薬口に苦し」という言葉があるように、ひと昔前はお薬と言えれば苦くて嫌なものでしたが、今はカプセルやタブレットなど飲みやすいお薬が多いですね。お薬の進歩は目覚ましいですが、最近は「お薬は服薬するもの」という固定観念さえ崩す『デジタル薬』なるものが国内外で開発されています。日本ですでに保険適用されているものでは、ニコチン依存症の治療アプリ（CureApp 社）があり、医師から処方箋をもらってアプリをダウンロードすることで、アプリが毎日チャットなどを通して禁煙のサポートをしてくれるという仕組みです。高血圧や糖尿病などの治療アプリも開発が進んでいますし、他にも VR（バーチャルリアリティ）で美しい風景を体感することなどによってうつ病の治療を目指すデジタル薬や、スマホやタブレット端末でのゲームを通して発達障がいの治療をするデジタル薬も実用化に向けて臨床試験が行われています。お薬のイメージがどんどん変わっていきそうですね。

医療ライター 妹尾 淳子

親知らず



抜いた方がいい？

親知らずとは、一番奥に生えてくる歯で、正式には「第三大臼歯」と言います。

最近では元々ない方もいますが、昔の人は寿命が短く、親知らずが生えてくる頃には既に親が亡くなっているというのが名前の由来だと言われています。

親知らずは、正常に生えてこない場合や、歯ぐきやあごの骨の中に埋まったままの場合もあります。生え方や埋まり方によっては、歯ぐきが腫れたり、強い痛みが出たり、また、うみがたまり口臭がしたりすることがあります。炎症がひどくなると、顔が腫れ、口が開けられなくなることもあります。また、親知らずとそのひとつ手前の歯との間はむし歯になりやすく、両方の歯がむし歯になってしまうこともあります。生え方によっては、手前の歯の根を吸収させてしまうこともあります。また、歯並びやかみ合わせを悪くする原因の一つにもなります。

このため、親知らずは抜歯することも多いのですが、親知らずの抜歯は比較的難しい処置になることもあり、特に下の親知らずは抜いた後、顔が腫れ、長期間痛みが続くことも少なくありません。また、親知らずの根の近くには下唇の周りの感覚を感じる神経が通っており、術後にしびれが残る危険性も考えられますので、総合病院や大学病院の口腔外科で抜歯が必要な場合もあります。逆に正常に生えている場合は、親知らずだからといって抜歯する必要はありません。

抜歯が必要かどうかは、レントゲン撮影などを行い、総合的な判断が必要です。奥歯の奥の方に違和感や痛みがある場合は一度ご相談ください。

「歯と口の健康 アラカルト」抜粋

歯科助手 宮下 加奈子

編集後記



8月に約1週間、フィンランド旅行に行ってきました。白夜で夜の23時頃までお昼のように明るく、朝も2時ごろには夜が明けていたので、異国の空気と相まって滞在中はとても不思議な気分でした。

フィンランドといえばオーロラやサウナが有名ですが、日本でも人気のある「ムーミン」や、「マリメッコ」というアパレル企業、「アラビア」という陶磁器のブランドが生まれた国でもあります。フィンランドの首都であるヘルシンキは、デザインと建築の都市と言われているだけあり、お店や街並みもとてもおしゃれでした。



marimekko

「世界で一番幸せな国」、フィンランド。気になったら是非調べてみてください♪

「ほほえみ」バックナンバーはホームページにも掲載中です！

西村歯科 泉大津

